

# 学校移動博物館事業を学習活動として成立させる要件

小川雅弘\*1 堀田龍也\*2

各地では学社連携の事業として学校移動博物館等の事例が多く報告されてきている。しかし、受け入れ側の学校では行事と捉え負担意識を持つ教員もいる。そこで本研究では、いくつかの計画立案の支援方法を用意し、その利用結果と意識調査の分析から、学校移動博物館事業を学習活動として成立させるための要件について検討した。

<キーワード> 総合的な学習の時間 学校開放 学社連携

## 1. はじめに

2000年12月の全国の博物館に対して行われたアンケート調査によれば（回答館 998 館）、学校教育の支援を目的として学校移動博物館を実施している博物館は全国に 66 館ある。さらに、出前授業を実施している博物館は 305 館、博物館資料を学校の授業へ貸出している博物館は 476 館あり、年々増加の傾向を示している（吉岡 2001）。

また、学校移動博物館や学校での博物館授業の実践例も報告され、学習に効果があることも明らかにされてきている（博物館と学校をむすぶ研究会 2000）。

## 2. 学校移動博物館

学校移動博物館では、浜松市博物館の場合、学校の中に博物館の展示活動や体験活動・講座などの機能を学校に持ち込み、次のようなことをねらって行っている。

- ・ 資料から情報の引き出し方を経験する
  - ・ 実体験と知識を結びつけ生きた力を養う
- そして、博物館そのものに、何があるのかを知り、博物館で何ができるのかを知ってもらうことを目的としている。

## 3. 浜松市博物館の学校移動博物館の課題

過去 8 年間、学校移動博物館を実施している浜松市博物館のアンケート調査には、以下のような回答が見られる。

- ・ 学校移動博物館でどんな活動ができるのかわからない。

- ・ 博物館にある資料からどんなことが言えるのかわからないため、学校移動博物館を利用した授業をどうやって組み立ててよいのかわからない。

これは、学校側に博物館で可能な学習活動のイメージが上手く伝わっていないと思われる。

## 4. 研究の目的

そこで本研究では、博物館職員、あるいは地域の人材を有効に活用した学習活動を展開できるように、その計画立案の支援の方法を用意し、学校移動博物館が、学校での学習活動として機能できるようにする。

学校移動博物館開催後の教員へのアンケート調査の分析を行い、学校移動博物館を利用した活動を学習活動として成立させる支援が有効であることを検討する。

## 5. 用意した支援の方策

学校移動博物館での活動イメージを学校側に持ってもらうために、以下のような支援の方策を用意した。

- ・ 各学校の活動事例の Web 上への紹介
- ・ 実際に学校を訪問しての活動事例のプレゼンテーション
- ・ 学校を訪問しての各学年との協議
- ・ 博物館において開催されている体験活動への参加

## 6. 学校移動博物館開催までの手順

---

\*1 浜松市博物館 ([masahiro@ogawa-wakuwaku.net](mailto:masahiro@ogawa-wakuwaku.net))

\*2 静岡大学情報学部 ([horita@horitan.net](mailto:horita@horitan.net))

学校移動博物館を有効な学習活動の場とするために、開催年度の前年より以下のようなスケジュールで、学校側との連絡調整を行っている。

しかし、学校によっては、移動博物館の開催時期まぎわまで学級担任にその日程が知らされていない学校もあった。

### 学校移動博物館開催までの手順

開催前年度11月	次年度開催希望調査
同 12月	次年度開催校選抜
同 1月	市内校長理事会にて次年度開催校決定
	次年度開催校へ挨拶及び次年度教育課程組み込み
開催年度4月	開催校へ開催依頼挨拶
開催2ヶ月前	基本展示キット決定・内容協議
同 1ヶ月前	体験活動内容協議・準備物打合せ
開催前日	展示作業・教師への展示解説
開催期間中	学習内容に応じ事前打合せ(授業ごと)
開催後	教師及び児童への事後アンケート

## 7. 計画立案の支援の手だてと実践例

学校移動博物館でどんな学習活動が出来るのか、また、どんな日程を組むことが出来るのかを学校が計画する際に参考になるように、Web上に以下のページを用意した。

### (1) 学校移動博物館のねらい

学校移動博物館の目的	
1	実物資料や複製品に直接触れることや、さまざまな体験学習を通して、楽しみながら学習できる機会を設ける。
2	博物館の資料を実際に見たり触れたりすることにより、子供たちの発達段階に応じて、歴史学習の動機づけや教科学習の発展を図る。
3	考古資料や民俗資料に接することにより、博物館を身近な存在として認識できるようにするとともに、文化財を大切にしていこうとする気持ちを育てる。
4	学校と博物館との協力関係を築く中で、博物館資料を有効に活用した学習活動の展開や学校教育現場のニーズにあった博物館のあり方等について、相互に改善のための意見交換を行なう場とする。

博物館が考える学校移動博物館のねらいや目的、運営方法などを Web 上に公開し、博物館の意図が学校に伝わるように努力している。

### (2) 移動博物館基本キットメニュー

実際に学校に展示されている様子が伝わるようにその内容と合わせ、学校の普通教室や特別教室での展示風景を Web 上で公開している。



特別教室での展示風景

### (3) 体験活動



火起こし体験に取り組む子供たち

学校移動博物館で実際に行った体験活動の様子を、Web に公開し、活動計画の参考にしていただいた。その結果、学校と博物館での活動だけでなく、地域の方と取り組む活動も行われた。



地域の方と取り組んだわらぞうり作り

#### (4) これまでの実践事例

学校で実際に行われた体験活動の様子や、授業の様子、期間中の時間割は学校側に移動博物館の様子を伝えるのに役立った。

また、学校移動博物館の先行事例は、新たに活動を計画していこうと言う学校の計画立案に役立ち、それまで紹介されている活動例に、地域との活動や、新しいメディアを利用した活動を取り入れたものが生まれたりもした。



展示室での活動前に Web で学習する子供たち

### 8. 事後アンケート

学校移動博物館では、開催校毎に児童と教師に事後アンケートを実施している。その中から、移動博物館開催までの手順に従って打合せを行ったが、それ以上の協議がまだ不十分であった平成 8 年度と、手順に加え各学年との協議も行った平成 12 年度、校内研修の場などで事前プレゼンテーションを行った今年度の教師用のアンケートを比較分析する。ただし、平成 12 年度の開催校 6 校の中には、学校の都合等で事前協議が十分出来な

った学校も含まれる。また、今年度のこれまでの開催校は 2 校で、事後アンケートが博物館に戻ってきているのは 1 校である。(2001. 8 現在)

それぞれのアンケートの中から、「移動博物館を開催したことで、学級・学校・その他でどんなマイナス要素を感じましたか。」という設問に対する回答は以下のとおりである。

#### 平成8年度

授業時間・時数の調整が大変であった	14
担当者が大変であった	1
移動博物館の部屋が授業でつかえなかった	1
特になし	34
無答	56

#### 平成12年度

行事と重なりあわただしかった	5
教科の進捗とあっていなかった	5
子供が昼休みも博物館に行ってしまう困った	2
体験活動が十分出来なかった	3
特になし	17
無答	34

#### 平成13年度

年間の教育課程に組み込んで欲しかった	2
低学年には内容が難しかった	2
部屋が狭かった	1
体験活動で教師への負担が大きかった	4
特になし	3
無答	9

この結果を見ると、事前協議を十分行っていなかった段階では、授業時間との関係や学校行事との関係をマイナス要素としてあげている先生が多く、プレゼンテーションも合わせて行うようになると、実際の活動内容面への不満を答える先生が増えてきている。平成 13 年度の回答の中に見られる、年間の教育課程に組み込んで欲しかったと言うものは、博物館としては、前年度の教育課程編成時期から学校へ連絡・依頼をしており、学校内の事務引継ぎ等の問題であると思われる。

また、「学校移動博物館を子どもたちにとってより良いものとしていくためにはどんなことをしていけばよいか」という設問に対して各年度の回答を見てみると、

#### 平成 8 年度

「普段の授業に支障の無いように配慮してもらいたい。」

#### 平成 12 年度

「教材研究の時間を確保し教科内容に関係あるも

のとして博物館に何があるのか理解を深め有効な利用の仕方について考える」

### 平成 13 年度

「体験活動などを単発的に行うのではなく、教科や総合と絡めて意義のあるものにしていく」

と言うような回答が見られる。

これらのことから、事前協議を十分に行わなかった時期には、事後の教員の意識は負担意識が強く、学習活動機会としてとらえていると言うよりも単に行事としての意識が強いと指摘できる。それが事前協議を行うようになってくると、学習活動のひとつの場面として捉えられるようになり、事後のアンケート回答にも学習の内容に関わるものが増えてくる。

これは事前協議を行った学校とそうでない学校が立案した期間中の時間割にも別表①・②のような違いが見られる。事前協議を十分に行うことが出来た学校では、開催期間中の時間を有効に利用して展示解説や体験活動を行おうとしていること

が分かる。また、それらの学校の中には、体験活動の計画立案にあたり、地域の老人会や父兄と共に活動できるような計画を立てる学校も見られた。

### 9. まとめ

学校移動博物館の内容を計画立案するにあたり、Web 上にこれまでの実践例や、内容等を公開したことによって、事前協議に際し、活動のイメージを互いに持って協議することが可能になった。それに伴い、メールなどを利用した細かな協議もできるようになった。

また、Web のみならず、事前協議を十分行うことにより学校移動博物館という活動を行事としてとらえる教員も減り、学習の場として利用しようとする教員の姿が見られるようになってきた。

このことから、博物館側に Web、メール、TV 会議などの様々な支援のツールを用意できればさらに効果的に学習活動が展開でき、博物館情報の教育への利用が有効であることを示すことができ

別表① 学校移動博物館利用時間割 事前打合せなし

時限	水		木		金		土		火		水		火		
	展示	体験	展示	体験	展示	体験	展示	体験	展示	体験	展示	体験	展示	体験	
2校時	9:30~10:15							4年1組							
3校時	10:35~11:20	5年2組		1年1組				4年1組			2年2組		6年	5年	
4校時	11:25~12:10	2年1組		1年2組		5年1組	5年1組	4年2組	/		6年1組				
昼休み	13:00~13:20														
5校時	13:50~14:35			3年2組							6年2組		5年1組		
利用者数		126名		277名		227名		25名		122名		165名		170名	

別表② 学校移動博物館利用時間割 事前打合せ有り

時限	水		木		火		水		木		金		
	展示	体験	展示	体験	展示	体験	展示	体験	展示	体験	展示	体験	
2校時	9:25~10:10	1年1組 1年2組		5年1組		1年	3年4組	3年1組	6年2組	3年3組 3年4組	3年1組	2年	3年5組
3校時	10:30~11:15	2年1組 2年2組		5年2組			3年5組	3年2組	6年3組	3年4組	3年2組		1年3組 1年4組
4校時	11:25~12:10	2年3組 2年4組		5年3組			6年5組		6年4組		6年1組		1年5組 2年5組
昼休み	12:55~										隣接小学校		
5校時	13:55~14:40	/		5年4組		6年	4年3組	4年3組		4年4組	3年3組		5年
6校時	14:25~15:10			4年1組							4年2組		
利用者数		342名		959名		420名		389名		937名		320名	

る。また、学校側も早い時期からの協議を心がけることによって、事前事後の学習活動も効果的に展開でき、社会教育施設や地域の人材を利用した学習計画を立案できるということが分かった。

#### 参考文献

吉岡 伸（2001）学校教育の中での博物館利用，文環研レポート第15号，9-14，文化環境研究所  
博物館と学校をむすぶ研究会（2000）学ぶ心を育てる博物館，ミュゼ